

春のシンポジウム

4月25日(土)

於:静岡労政会館

# アベノミクスの働かせ方と 働く者の戦略

## 報告 「アベノミクスによる働かせ方」

加茂大樹 氏(静岡合同法律事務所 弁護士)

### (1) 企画業務型裁量労働制の見直し

問題点として 長時間労働の抑止力がない、対象の拡大のおそれ、手続きの簡素化があります。

### (2) 高度プロフェッショナル労働制の創設

問題点として 長時間労働を助長するおそれ、対象労働者が広範となる可能性、歯止めがないがあります。

## 報告 「働く者の対抗戦略」

林克 氏(静岡県労働組合評議会 議長)

### (1) 労働法制改悪をめぐって

雇用共同アクション、職場からの署名、経営者協会・自治体などとの対話、国会議員要請行動、街頭宣伝や共同集会などのとりくみを行います。

### (2) 対抗してたたかう

90年代から始まった労働システムの変容 非正規労働者の増大に対し、これまでの企業別組合では限界があり、非正規の組織化、労働相談とローカルユニオンの対応があります。また社会的賃金引上げの取り組みとして、最低賃金、公契約条例の制定、公務員賃金等があります。

## 【基調報告】「日韓の労働組合の戦略比較」

安周永 氏(常葉大学法学部 講師)

労働法改正における労働組合の戦略は、労働法改正による労働市場の改革や企業を超えた労働組合の対応の点で重要です。

1997年から2007年までに日本よりも韓国の方で労働市場の自由化が進むと想定されるにもかかわらず、実際には韓国よりも日本の方で労働市場の自

由化が進んだのはなぜでしょうか。

日本の連合(協調主義路線)と韓国の民主労総(対決路線)の戦略を比較すると、連合がインサイダー戦略と提携戦略無しであるのに対し、民主労総はアウトサイダー戦略と提携戦略有りをとりました。

インサイダー戦略とは、審議会の委員、協力政党を通じた国会での影響力を示します。またアウトサイダー戦略とは、審議会の脱退やストライキ、大衆運動を示します。連合が審議会や国会での審議と実態調査にとどまっていたのに対し、民主労総は審議会の脱退、ゼネスト宣言、大規模集会という戦略をとりました。

また提携戦略においては、民主労総が産別労組に転換し、市民団体との提携を積極的に行ったのに対し、連合は産別労組への組織転換が議論されたものの現状維持で、他の社会勢力と連帯するのは組織的に好ましくないと考えられました。

今後の労働市場の改革の方向を規定する意味で、労働組合の戦略は重要です。

## これからの企画

### 現代労働負担研究会 in 静岡

- ・日時...5月30日(土)PM1:30~
- ・会場...静岡労政会館 展示室

### 第102回定例研究会

- ・日時...6月10日(水)
- ・会場...静岡県評会議室
- ・「東アジアの社会福祉」  
李蓮花(リレンカ)氏  
(静岡大学人文社会科学部 准教授)

\*連絡先:〒422-8062 静岡市駿河区稲川2-2-1 コハラサウスサイドビル7F(静岡県評内)

静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

メール [roudouadv@wave.wbs.ne.jp](mailto:roudouadv@wave.wbs.ne.jp) ホームページ <http://www.geocities.jp/shizuokarouken/>